

学会記事

一般社団法人日本地質学会の議事録を掲載しています。

日本地質学会2016年度 第2回理事会議事録

日時：2016年9月9日（金） 13:30～16:00

会場：北とびあ 901会議室

出席役員：理事（34名）：天野一男 安藤寿男 大藤 茂 緒方信一 笠間友博 狩野彰宏 川端清司 川辺文久 小宮 剛 沢田 健 斎藤 真 佐々木和彦 坂口 有人 澤口 隆 菖蒲幸男 杉田律子 竹下 徹 田村嘉之 辻森 樹 内藤一樹 中澤 努 仲谷英夫 西 弘嗣 楡 井 久 廣木義久 星 博幸 保柳康一 松田達生 松田博貴 向山 栄 矢鳥道子 山田泰広 山本高司 渡部芳夫 監事（1名）：山本正司

欠席役員：理事（11名）：有馬 眞 井龍康 文 市川八州夫 岡田 誠 亀尾浩司 清川昌一 田村芳彦 奈良正和 平田大二 福富幹男 三田村宗樹 監事（1名）：藤本光一郎

その他出席者：橋辺菊恵（事務局）

*成立要件：理事総数45名の過半数23名 本日の出席者34名で本理事会は成立。

*議決：出席者の過半数18名

*書記2名の選出：内藤、中澤

報告事項

1. 執行理事会報告（斎藤常務理事）

第1～3回の執行理事会議事録の要点が説明された。

前回理事会以降の逝去会員の氏名が報告され、黙祷をさげられた。

2. 理事及び委員会等報告

1) 国際地学オリンピック三重大会報告（地学オリンピック日本委員会久田理事長）

日本勢は金メダル3つ、銀メダル1つを受賞した。選手以外のオブザーバも良い成績を残した。大会開催には三重県内の高校にもご協力いただき、和やかなムードをつくってくださった。開会式には当学会副会長が参加した。今大会では選手と引率・運営者の宿泊所を完全分離することで円滑な大会運営ができたほか、日本の防災教育、科学教育基盤を強くアピールすることができた。後日文科科学大臣を表敬訪問する。今回の地学オリンピック開催については新聞等に150以上の記事が掲載された。

2) 行事委員会（代斎藤理事）

東京・桜上水大会では、市民講演会、国際シンポジウム、一般公開シンポジウ

ム、アウトリーチ関連セッション等を開催する。一般講演の発表件数は昨年よりやや減少。巡検は最小催行人数に達しなかったため2つのコースをキャンセルしたが、いくつかは移動手段をレンタカーに切り替えることにより実施することにした。レンタカー使用マニュアルを作成して遵守を義務付け、定時連絡を実施することにより安全確認を徹底することとした。また、これまでの大会の巡検参加状況をもとに、来年度の巡検の設定を再検討することとした。

来年度（2017年）の愛媛大会は9月16-18日に愛媛大学で開催予定。2018年は北海道大学で開催予定。

3) 地質学雑誌編集委員会（中澤理事）

巡検案内書は来年度以降も地質学雑誌の通常号に掲載すること、学会賞及び小澤儀明賞、欄山雅則賞受賞者には受賞テーマに関連したレビュー論文の執筆を依頼すること、トムソン・ロイターの文献データベースEmerging Sources Citation Index (ESCI) に地質学雑誌の登録申請をすることについて報告があった。

4) 防災学術連携体の活動について（斎藤理事）

日本学術会議・防災学術連携体での活動の一環として、8/27に東京大学で開催された防災推進国民大会において、学会企画として地質地盤情報の講演会を開催した。また防災学術連携体が企画した火山災害関係の講演会では、当学会火山部会から及川会員に火山地質について紹介していただいた。このほか防災学術連携体では現在、風水害関係のセミナーの開催が検討されているが、このセミナーにも学会として斜面災害の観点から関わっていきたい。

5) 創立125周年に向けての学会コミュニケーション（渡部会長）

来年度の年頭挨拶に創立125周年に向けた学会コミュニケーションを入れる。現在、学会の解決したい現状とその解決手段について項目ごとにとりまとめている。まだ未検討の項目もあるが、執行理事会を中心に検討をすすめる。12月までに全体をとりまとめる。理事会からの意見を募る。

6) 125周年記念事業実行委員会（矢鳥理事）

記念事業の検討について報告があった。ジオルジュの125周年記念号や「社会と地質学」「県の石」に関する記念出版物を企画する。記念支部事業、記念式典・祝賀会を開催予定。記念ロゴはデザイナーによるリメイクの終了後にニュース誌で最終図案を紹介する予定。そのほか寄付、記念表彰、会員証、125周年広告を検討している。

7) 県の石支援委員会（辻森理事）

山口県、鳥取県に会長及び関係理事が表敬訪問し、「県の石」の活用についてお願いをした。この模様は新聞各紙で報道

された。また「県の石」について、学会ニュース誌にカラーで紹介記事を掲載したほか、英文リーフレットを作成しIGCで紹介した。現在、書籍出版企画を検討している。書籍では学術面の解説をしっかりやってほしい、「県の石」をジオパークに是非活用していただきたい、とのコメントがあった。

8) そのほか

・フィールドジオロジーシリーズの電子版が出版された。印刷版と値段は変わらないが、スマートフォン等でフィールドに持っていけるので是非学生に普及していただきたい（天野理事）。

・地方地質誌「東北地方」（朝倉書店）及び「海洋底科学の基礎」（共立出版）が間もなく出版される予定（安藤理事）。

審議事項

1. 謝金に関する細則の検討（運営規則の変更）（緒方理事）

柔軟な講師謝金の設定を可能にするため、謝金に関する細則の適用を理事会が定める場合を除くことにするよう、細則の一部を改正することをはかった。全会一致で異議なく承認された。

2. 各種委員会委員の変更及び既存委員会の現状把握と整理（斎藤常務理事）

学会活動の明確化と活発化のため、委員会構成の確認をした。理事会規則第14条1項による委員会として、支部長連絡会、地質災害委員会、名誉会員推薦委員会、男女共同参画委員会、ジオパーク支援委員会、各賞選考委員会、理事会規則第14条2項による委員会として、地学オリンピック支援委員会、法務委員会の構成が提示され、委員の交代・継続が提案された。名誉会員推薦委員会については、委員の選出方法と次回理事会での決定が確認された。全会一致で異議なく承認された。

3. 会員証の発行について（緒方理事）

125周年記念事業の一環として、学会員としての自覚を高め、学会外への証明、学会行事受付業務の簡素化のため会員証の作成が提案された。バーコードつきのプラスチックカード形式とし、2018年1月配布とすることが提案された。全会一致で異議なく承認された。

以上、この議事録が正確であることを証するため、議長及び出席監事・理事は次に記名・捺印する。

2016年9月21日
一般社団法人日本地質学会
理事会議長 向山 栄
(以下、理事氏名省略)